

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
①	1	1	7	就学前健診事業	学校教育課	健診により早期発見につながったケースについて就学までの直接の支援は十分ですか。検査を待っている保護者の話を聞くことがあります。	就学前健診で発達に関する相談等があれば、学校につながります。学校生活において支援が必要であれば、市独自で配置している特別支援教育主任相談員や特別支援教育支援員と連携し、個の実態に応じた適切な支援に取り組んでいます。また、学校生活に関する悩みや不安をかかえ、特別な教育的支援を希望される保護者を対象に就学支援委員会を開催しています。
②	1	2	9	子ども体験広場事業	青少年育成課	子どもの体験としてアート以外に体験の幅を広げたり変化させたりすることも必要ではないと感じます。2-1-18の事業との違いはありますか。	様々な体験活動を行っているところです。2-1-18事業「アドベンチャイム事業」は統合し、実施しているところです。
③	1	2	11	次世代リーダー養成事業	青少年育成課	貴重な経験をもとにリーダーとしての学びが成されたこと、今後に期待したいところ。高校生世代のリーダーシップの育成は全国的にも注目され既に他地域では活躍する高校生の育成も行なわれています。この事業が廃止されるに当たっては高校生の育ちを支援する事業の新たな展開は必須だと感じるがいかがでしょうか。	「日本の次世代リーダー養成塾」へ古賀市在住の高校生の派遣のための2名参加枠を保持しておりましたが、夏季休業期間中の補習授業・部活動への参加等、2名の枠を満たすことが難しくなっていました。青少年育成課が行う事業でも、高校生やジュニアリーダー、ボランティアに関心がある中高生が参加いただき、支援を広げていきたいと考えます。
④	1	3	2	不登校児童生徒等支援事業	学校教育課	適応指導教室「あすなろ」に行っている対象児童は何人ぐらいか。そして29年度は何人の児童が改善につながったか。	平成29年度は体験入級も含め12人（児童3人、生徒9人）。入級者全員がチャレンジ登校を果たし、改善が見られました。また、中学3年生3人全員が希望する高校に進学でき、現在も通学しています。
⑤	1	3	3	特別支援教育事業	学校教育課	「特別支援教育支援員」の配置は学校にとって大変助かっていることでしょうか。現状は何校、何名の支援員の配置なのか。	小学校8校、中学校3校の全小中学校に配置しています。各学校に約1～2名（計15名）の配置をしています。
⑥	1	3	3	特別支援教育事業	学校教育課	子ども発達指導訓練事業の利用者増が続いているところから、学校での特別支援の必要量も増えているのですか。また、それに応じて支援の量も増えているのでしょうか。高校進学についての相談窓口がありますか。高校生に関する支援が見当たらず不安だと保護者から聞いています。	特別支援学級を含め、特別な支援を要する児童生徒の人数は増加傾向にあります。高校進学については、各学校において、情報提供等を行っており、保護者や生徒の相談にも対応しています。

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
⑦	1	3	4	外国語教育推進事業	学校教育課	ALT 3名を各中学校区に配置し・・・とあるが、これから小学校3、4年の外国語活動、5、6年の英語科への対応は大丈夫だろうか。	小学校外国語教育については、平成32年度の新学習指導要領完全実施に向け、現在、移行期間として、国や県からの人的配置や市のALTを活用しながら、外国語教育の早期化に対応し、取り組んでいます。特に、市教育委員会主催の研修会や各校の校内研修を通して、ALTを活用した教員の指導力の向上に努めているところです。また、市独自の小学生対象の英会話教室も毎年実施しています。
⑧	1	3	16	学校評議員事業	学校教育課	30年度からコミュニティ・スクールを実施しているということで、この事業はおそらく、学校運営協議会が担うことになるとは思いますが、その準備はできているか。	平成30年3月に古賀市学校運営協議会施行規則を制定し、平成30年度から各学校において学校運営協議会を設置しています。
⑨	1	3	19	青少年育成団体支援事業	青少年育成課	青少年問題協議会や子どもの育ちを考える協議会で出された子どもの育ちへの問題点や活動内容については子ども子育て会議でも参考になると考えます。是非お聞かせ願いたいです。	継続的に協議会を開催し、情報共有、活動を継続したいと考えます。
⑩	1	3	24	地域コミュニティにおける子育て支援推進事業	コミュニティ推進課	校区コミュニティ連絡会議や校区まちづくり活動の支援が行なわれ、子育て支援の推進がされているとのこと。地域で子育てを推進していくことは子育て支援条例において重要であり、街づくりには必須の活動だと感じます。どのような活動であったか子育て支援課でも是非把握していただきたいがいかがですか。	今後は、積極的に情報提供・情報共有をしながら、連携して取り組める事業については連携し、子育て支援を推進していきたいと考えております。
⑪	2	1	2	乳幼児親子居場所提供事業	子育て支援課 (子育て支援係)	専門職同士の連携の図りやすさがある事にとっても期待します。職の連携だけでなく事業の連携についても図られることはありますか。	専門職同士の連携は、特に相談事業について情報を共有し適切な支援につながるよう取り組んでいるところです。また専門職が直接関わらない事業であっても、関連している事業については、課を横断して情報提供をするなど、事業連携も実施しているところもあります。今後は、部を横断する事業についても積極的に連携をしていきたいと考えております。

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
⑫	2	1	3	地域乳幼児親子交流促進事業	子育て支援課 (子育て支援係)	<p>地域と行政の一体に今後も期待します。 でんでんむしはつどいの広場となっているが、ひかりマザーズルームはどのような位置づけでしょうか。子育て支援センターと聞いているが、広場とセンターの機能の違いがあるのか、市内の同様な拠点として支援のあり方等について連携は図られているのか、お聞きしたいです。 2-1-2事業とともに、日々子育てが変化している現状を踏まえ、支援者の学びの場も必須だと考えるが連携して学び共有する場は確保されていますか。</p>	<p>ひかりマザーズルームは、つどいの広場「でんでんむし」と同様に、古賀市地域子育て支援拠点事業として実施しており、子育て相談をはじめ、子育てに関わる情報提供等を実施しております。 なお、つどいの広場「でんでんむし」は、サンコスモ古賀内に設置していることから、家庭児童相談室、発達ルーム等専門的な相談につなぎやすく、支援がしやすい立場にあることが特徴です。 他の拠点施設と支援のあり方等についての連携が十分ではないため、今後は共通認識のもと連携が図れるように検討していきたいと考えております。 子育て支援者が「子育て支援」について学ぶことは非常に重要であると考えております。 子育て支援者が継続して学べるように、研修会の情報を提供するなど、共に学べるようにしていきたいと考えております。</p>
⑬	1 2	1 1	5 10	子ども発達指導訓練事業 子ども発達相談事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	<p>利用者増加により検討されるとのこと。子育て支援事業や学校教育課ひまわり学級などとの連携により、さまざまな場面で途切れることなく支援される仕組みの検討はありますか。療育の場面だけでの支援に終わることなく、多様な支援の場がある事は事業の負担軽減にもなるのではないかと考えますがいかがでしょう。</p>	<p>こども発達ルームは療育事業のみならず、乳幼児健診からのフォロー、保護者支援や保育園・幼稚園などへの巡回相談、療育研修会、就学支援事業なども行っています。また就学支援事業では、学校教育課やひまわり教室などと連携を図ることにより、途切れることがないよう支援につなげており、引き続き密にした連携を行っていきたいと考えています。</p>
⑭	2	1	8 9 10	子育て相談事業 家庭児童相談支援事業 子ども発達相談事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	<p>それぞれの相談事業の違いは？（特に8と9） 窓口は？その違いをどのように周知しているのか。</p>	<p>担当係は子ども家庭係 8：子育てに関する全般的な相談（児童虐待、DV、夫婦関係、ひとり親家庭の相談など）。 9：子どもと家庭に関する相談（親子関係の悩み、子ども本人の悩みなど） 広報やホームページ、子育てbookなどで周知。 虐待防止啓発や家庭児童相談室の案内ちらしを小中学校児童、保護者に対し配布しています。</p>
⑮	2	1	10	子ども発達相談事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	<p>相談件数の増加に対して、具体的にはどのような方向で検討されているのか。</p>	<p>相談については増加傾向であるが、発達ルーム職員が中心となり対応しています。相談後の療育や継続した支援が必要な対象者の増加について、継続した支援が出来るよう委託等も含め、検討しているところです。</p>

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
⑯	2	1	12	ペアレンティングトレーニング事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	効果的に行なわれており、今後の継続に期待します。終了後、保護者のつながりも互いに支え合ういい関係が継続して作られていると聞きます。その部分も是非評価とし、子育て支援が人とのつながりも重要であるという確認をしていただきたいがいかがでしょう。	講座終了後のアンケートより、「他の参加者の言動から良い気付きをもらえ、子育てに繋げる事ができた」「他の親とのつながりを深めて助け合い、サポートし合える関係を作ることができた」などの感想が多く寄せられました。またNP講座終了後には、各年度毎の同窓会なども開かれており、交流が継続的に行われていることから、孤立感、不安感の解消になっており、重要と認識しています。
⑰	2	1	17	家庭教育啓発事業	生涯学習推進課	小中学校の保護者は仕事で平日の講座には参加しにくいので情報にもたどり着いていない状況があるようです。平日以外の対応、情報発信の方法など工夫はありますか。	平日の講座や土日を利用した講演会など、できるだけ様々な方に参加いただけるよう配慮しています。また、情報発信は小中学校の児童・生徒にチラシを配布しできるだけ多くの方の目に触れるよう努めています。
⑱	2	1	19	乳幼児親子交流事業	青少年育成課	親子が集う場や機会が増えていて嬉しいとの声も聞いている。2-1-3と同様、市内施設の支援者が子育て支援について学びあい共有することは重要と思うがいかがか。	市内3中学校区に1か所の児童館・児童センターができ、今後も事業を充実させていきたいと考えています。
⑲	2	2	1	妊婦教室・相談事業	子育て支援課 (子育て支援係)	親子が集う場では産院での出会いから交流されているケースがある。当事業においても交流し支えあう参加者への支援についても考慮されているか。	市が月2回実施している「すこやか教室」は、妊娠初期に実施するため、つわりがひどい方、お仕事が忙しい方もおられ、ゆっくり交流することが難しいのが現状です。しかしながら、妊婦教室に参加している方々は、同じ時期に出産する予定であることから、この機会を大切に、これから一緒に子育てを楽しめるよう、座る場所等を考え、妊婦同士が交流しやすいように工夫しているところです。また、体調がよい方や時間に余裕のある方に対しては、妊婦教室終了後も、妊婦さん同士でゆっくり話せるように、場所を自由に使うことも研究しております。

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
⑳	2	2	3	助産施設入所管理事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	経済的な支援だけでなく、人的支援の不足も考えられないでしょうか。親からの産後支援がなく困っているケースへの支援が図られることはありますか。虐待死の事案もあったこと、産後うつなどのケースも増えていることへの予防策はありますか。	産後うつは10人に1人の割合でなるとの調査報告もあり、産後支援は非常に重要です。そこで、出産前から産後も支援が必要な妊婦を「特定妊婦」として、リスクの高い妊婦を妊娠期から関わりを持って支援しているところであります。 妊娠の届出時に、妊婦アンケートや面談等を実施して状況確認し、産院と情報を共有して連携を図りながら継続した支援をしております。 また、第1子が4ヶ月～6ヶ月未満の母子を対象に、IPP事業を実施し、体験型学習で母子愛着形成を支援するなかで、児童虐待や産後うつなどの予防にも努めております。
㉑	2	3	4	子育て相互援助事業 ファミリーサポートセンター事業	子育て支援課 (子育て支援係)	マッチングの難しさ、人材発掘、地域との連携など担当者の苦労もあると思います。利用者のニーズはあるので是非いい方向に。また、利用者数の増減にかかわらず、システムがあるというこの町の安心感は大きいと思うので継続させて下さい。	ファミサポ講習会の最終日に、今後利用しやすいように、まかせて会員とおねがい会員のマッチングを行い、実際の利用前に顔合わせをおこなっております。 しかしながら、緊急時の対応が難しいこと、またそもそも講習会を受けていない方（非会員）が、緊急で利用を希望されることもあり、利用が難しい現状にあります。 利用者の実数は数名ですが大変喜ばれているため、今後も引き続き事業のPRとまかせて会員の募集に力をいれたいと考えております。
㉒	3	1	6	ひとり親家庭等日常生活支援事業	子育て支援課 (子ども家庭係)	H29年度の具体的な利用数と内容（開示可能な範囲で）	登録者18人、利用者8人、利用回数48回(101.5時間) 内容：住居の掃除、食事の世話、生活必需品の買物、乳幼児及び児童の保育、身の回りの世話
㉓	3	2	1	男女共同参画推進事業	コミュニティ推進課	育児と仕事の両立を含めたとあり、それ以外の情報提供や学びがどのようにあったのか気になる。育児と仕事に特化することなく、そもそもの女性の生き方についての視点も是非図っていただきたいがいかでしよう。	「男だから」「女だから」という性別により固定的に役割を区別する意識を解消し男女平等意識の形成に向けて、あらゆる機会を通じて啓発活動を行っているところであります。今後も、市民一人ひとりの意識改革のため、啓発活動を行ってまいります。
㉔	3	3	8	公園整備事業	都市計画課	火おこしや野外炊飯を含め、キャンプできる施設の整備は図られますか。子どもの体験事業とも重なって、野外での活動の推進は必須だと考えます。	都市公園にキャンプ施設を新たに整備する計画はありません。

	基本 目標	基本 施策	事業	事業名	所管課	質問内容	回答
⑫	4	3	5	放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携事業	青少年育成課	<p>放課後子どもクラブとあり、放課後児童クラブと放課後子ども教室が混同した表現になっています。確認をお願いします。</p> <p>子どもにとって学童保育所での年間の生活時間は学校で過ごすよりも長いと聞きます。そこでの子どもの生活の保障がされるためにも1-3-16のような適正な評価ができるシステムはありますか。</p> <p>また、4-3-3のような発達についての支援は年間を通じて必要と考えますがいかがでしょう。</p> <p>児童クラブと子ども教室の連携については進められる中で、生活と体験というそもそものあり方の違いもあるでしょうから、子どもの状態をよく感じてどのように提供できるのか考えあう支援者の学びを是非図っていただきたいと思うがいかがでしょう。</p>	市内8小学校に広場の設置ができ、また連携については、4小学校にて行っているところです。今後についても連携の推進をはかりたいと考えています。